

1: 出席者

大西^b・千葉・片山・平林・大塚^c・吉田^c・黒河^c・鈴木^{c,d}

(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2: 報告

- 核データセンター長会議に参加した。(大塚、加藤)
 - EXFOR の中で光核データをコード K として採録することとなった。
- 年次報告書が完成した。(吉田)
- 辞書ワーキンググループ報告 (第 15-16 回)。詳細は別資料参照。(黒河)

3: 議論

- 核データセンター長会議での採録分担見直しに関する議論により、論文が出版されて 6 ヶ月以内に送信することとなった。EXFOR の採録の流れを以下のように変更する (承認)
 - チェックまで作業が終了した時点でファイルを IAEA へ送信する。
 - レフェリーで修正点が見つければ修正版を送る。
- ミシガンと RCNP で取られたデータが混ざった論文の採録について
R.G.T.Zegers et al., PR/C74(2006)024309 (first author はミシガン)
の採録を NNDC の担当者 (Rochman) から依頼された。以下の状況を踏まえ、採録を行なうこととする。(承認)
 - NNDC の担当者からの依頼であり、
 - NRDF でのデータ収集・収録活動が順調に進展しており、他の機関の援助が可能な状況にある。
- IAEA から採録依頼のあった相互作用断面積測定 (中国、蘭州) の論文を Area E として採録する。(承認)
 - 採録番号は通常を通し番号を用いる。
- D1651 の Data 2 は、他の論文から取られたデータであるので削除する。(承認)
Data 2 を測定した論文は、D1999 として採録予定である。
- 自由文採録基準について (承認)
HENDEL 導入後、論文の中に、NRDF の項目 (左辺値) に関連のある文章があれば、それを積極的に自由文に取り込むという方針が取られてきた。
論文を参照せずに論文に関する様々な情報が得られるようになった、という点でこれは好ましい。一方、数値データの利用には直接関係のない項目についても自由文が丁寧に記述される傾向にあり、これはともすると、本当に必要な情報が多くの自由文の中に埋もれてしまう可能性を産んでいる。また、採録側から見ると、採録情報が多くなることはチェックすべき箇所の増加につながり、好ましくない。
自由文の記載について以下の基準を採用する。
 - NRDF/EXFOR のいずれにもコード情報として入れられない参考文献情報は、その情報を利用者が論文を読むことで得られる場合には入れない。但し、Normalization に関する情報が文献で与えられている場合には入れる。

- NRDF の ANL にあたる解析法の箇所では利用コード名や公式名を入れる。
 - Detector の箇所では何を検出したかを入れる (物理量の定義に関わる)。
 - Status の箇所ではソース (Table, Fig, ページ, scan or author) を入れる。
 - Calibration, efficiency に関しては特にその情報がデータの解釈に影響を与えると判断される時のみ記載する。これらがデータの系統誤差と関連づけて議論されているならば、むしろ系統誤差のところに入れることを考える。
 - データの規格化に関係のある Monitor 反応については、コード化して入れられる場合には、コード情報や関連文献 (Related reference) の項にコードで入れることを考える。もしそれが不可能なら自由文で MONITOR=/.../ のところに必ず記載する。
 - 系統誤差に関してソースが分かる場合には必ず記す。
 - 測定器に固有の名前がついている場合には、その名前を記載する。
 - 論文に記述されていないが著者から得た情報の採録については、著者から提供された情報である旨をコメントとして反映させる。

- 新規データの月報について (承認)

EXFOR に関してどのようなデータが新規に追加されたかを標的核種ごとに見やすく整理したものを月毎に作成している。

<http://jcprg.hucc.hokudai.ac.jp/exfor/recentdata.html>

JCPRG の活動の紹介を兼ね、この PDF ファイルを、核理想、核談、核データ部会のメーリングリストに流すことが可能かどうかを関係者と相談する。

- NRDF の科研費の申請を行なう。(内容についての議論は 11 月 13 日に行なう)

- 新規コード (承認)
 - Z-MAX (F 型、および H 型) : Atomic number (upper limit)
 - Z-MIN (F 型、および H 型) : Atomic number (lower limit)
 - CA.F2 (V 型 8.3 類) : CaF₂
 - PHIC-2 (H 型) : Scattering angle phi of emitted particle 2 in c.m. system
 - 1/UCOULOMB (V 型 14 類) : 1/u-Coulomb
 - 1/SRUCOULOMB (V 型 14 類) : 1/sr/u-Coulomb
 - YEAR (V 型 14) : Year
 - EXC-ENGY-EMT-MAX (F 型) : Excitation energy of emitted particle (upper limit)
 - CL (V 型 2 類) : Chemistry Letters
 - BE.O (V 型 8.3 類) : BeO
 - NA.CO3 (V 型 8.3 類) : NaCO₃
 - 2ITYUDN (V 型 1 類) : Universita degli Studi di Udine and INFN Sezione di Trieste, Gruppo Collegato di Udine, Udine
 - DELTA-MOM-EMT-LAB (H 型) : Error in momentum of emitted particle in lab. system
 - 2ITYLEC (V 型 1 類) : Universita degli Studi di Lecce and INFN Sezione di Lecce, Lecce
 - 2JPNNIF (V 型 1 類) : National Institute for Fusion Science, Toki, Gifu

- 新規コードとして提案された以下のコードは再調査とする。
 - MDA (V 型 6 類) : Multipole decomposition analysis
"Partial wave analysis" という言葉の方が一般的ということはないか?
 - DRFTC (V 型 5 類) : Drift chamber
単に "Drift chamber" と論文に記載があれば MWDC とみなして採録しても良いのではないか?

- 修正コード (承認)
 - 10BE.O (V 型 8.3 類) を削除する。
 - 2JPNJAE (V 型 1 類) の展開形を Japan Atomic Energy Agency (JAEA) と変更する。
 - 16O (V 型 8 類) を削除する

- (DELTA-)KNN / DSS / DLS / DSL / DLL / DNN (H 型) の展開形を (Error in) Polarization transfer parameter $K(NN')$ / $D(SS')$ / $D(LS')$ / $D(SL')$ / $D(LL')$ / $D(NN')$ と変更する。

4: 次回

2006 年 11 月 14 日 18:30~